

平成26年度 安全衛生プロジェクト 活動報告

安全衛生活動の自主点検

OSHMS プロジェクトチーム ○片岡裕一 清水幹郎 藤田祐介
小木曾晴信 中村孝史 斉藤弘一 坪川茂

1. はじめに

実験・実習中に技術職員に事故等が発生すれば、その被害と影響は当事者のみならず多方面に及ぶ。そのような事故を防ぐために、教育研究支援センターは、センター長を責任者として安全衛生計画を立案して安全衛生活動を行っている。当センターは安全衛生活動の見える化・システム化を目的に労働安全衛生マネジメントシステムの構築をめざしている。本報告では、活動の骨格となる安全衛生計画とその実施結果の評価について報告する。

2. 安全衛生方針および目標

当センターの安全衛生方針はセンター長が「安全衛生上の危険有害要因を把握し、実験・実習環境のリスクを低減する。労働安全衛生マネジメントシステムを構築し、継続的により安全で衛生的な実験実習環境を目指す。」と定めた。この方針に従い安全衛生プロジェクトチームが目標を決定した。今年度の目標は手順書と記録書の作成率 50 %の作成と平成25年度の評価とした。表1に平成26年度安全衛生計画の内容と評価を示す。

3. 重点実施事項の概要と評価

安全衛生管理体制の確立については、熱中症予防のため WBGT をプロジェクト員全員で実施していたこともあり継続的かつ積極的にミーティングも実施できおおむね良好な評価を与えても良いと考える。しかし、特別に新しい業務を担当しなかったこともあり資格・法定教育の確認を 10 月以降怠った。今後はセ

ンター連絡会を機会として必ず確認する。ポスターについては自作をあきらめ購入することとしたい。職場の作業環境の確保については、ほぼ満足する活動を行った。今年度は照度測定の結果を受け、センター長より照度不足となっている執務環境への補助照明設置許可を得た。これは活動の一つの結果と考えている。健康管理については、センター員各自が自己管理への意識も高く 100 %の受診率を誇った。職場リクリエーションは盛会であり、センター員の安全衛生に対する意識も re-creation したと考えている。安全衛生教育は新たな該当者が無かったことから法定資格の確認が主であった。リスクアセスメントについては、ヒヤリ・ハット事例が無かったことは意識が鈍化してきているのではないかと考えている。小さな事からでも、決まりきった事であっても、強制であっても安全衛生意識の継続のために事例収集を継続する。

4. 次年度に向けて

今年度は主要な活動である熱ストレス指数と照度の測定マニュアルと記録表が完成したのでおおむね目標は達成できた。我々は安全衛生のために積極的に活動しているつもりであった。しかし、今年度の評価を行ってまだまだスパイラルの高さが低いことに改めて気が付いた。安全衛生の基本は「できることから、できるだけ」ではある。が今後は螺旋の間隔を少しずつ広げながらより安全、より衛生的を目指して行く。今後も関係各位には当センターの安全衛生活動の支援をお願いしたい。